

# Message

マレーシアは国際競争力を強化すべく、1990年代半ばから、経済発展のカギである裾野産業の活性化に力を入れています。そうした意味でも、同産業を担う中小企業の育成は必要不可欠です。マレーシア中小企業公社は、中小企業振興に向けた計画や戦略の立案に加え、個々の企業に対してもアドバイスや情報を提供しています。

2006年からはJICAの技術協力を通じて、中小企業のニーズをより細か

く分析した上で適切なアドバイスができるよう、中小企業カウンセラーの育成に取り組んでいます。さらにマレーシア中小企業公社が培ったノウハウを他の開発途上国の発展に還元すべく、日本人専門家の指導を受けながら、アフリカに対する研修プログラムを実現することができました。

日本の中小企業は高度経済成長を経て目覚ましい発展を遂げ、世界に誇る技術力・競争力を有しています。その姿は、マレーシアがこれから目指

すべき理想像であるといえます。また日本には、経営者がマネジメントやマーケティングのノウハウを学ぶ場として、全国に「中小企業大学校」があることにも感銘を受けました。昨年、JICAの研修で東京校を訪問し、このような教育システムをぜひ取り入れたいと、国内4大学に中小企業育成プログラムの導入を検討しています。

将来的にマレーシアと日本の中小企業が連携し、新たな市場を開拓していければと考えています。

東ティモールインフラ省  
ペドロ・ライ・ダ・シルバ大臣

## 日本が培ってきた インフラ開発の技術に学び 中長期的開発を実現する



profile

インドネシアとオーストラリアで、土木工学・エンジニアの学位を取得後、技術者として20年以上の業務経験を有する。2007年より現職。

1 999年以降の独立をめぐる紛争で、東ティモールの首都ディリは、建物の7割が倒壊する惨事に見舞われました。そんな中、どのような状況下にあっても、インフラ整備への協力を一貫して継続してくれたのは日本でした。また、東日本大震災が日本を襲った時も、日本はわれわれへの開発協力を止めることはありませんでした。日本人技術者やJICA関係者などが東ティモールのためにと真摯に働く姿は、「国家の基礎は“人”である」とい

うことを教えてくれました。私が絶大な信頼を置く日本の技術力も、そのような人たちが努力を積み重ねて生み出した産物だと思います。

東ティモールは、2012年5月に独立から10周年を迎えます。それに先立ち、東ティモール政府は2011年に「戦略開発計画」を発表しました。中期的な視野で国家開発を考えた時に、これからインフラ開発はますます重要な役割を担っていくことになります。

2012年3月、東ティモール初の借款

として、「国道1号線整備事業」に係る円借款契約が締結されました。これまで日本の支援を受けながら、無償資金協力による緊急リハビリ、技術協力による道路維持管理能力強化、インドネシアとの連携によるエンジニアの育成など、さまざまな取り組みが行われてきましたが、そうした土台があったからこそ、今回の円借款が実現したのです。日本のインフラ開発の技術に学びながら、さらなる発展を目指して開発を進めていきたいと思っています。

## 日本とマレーシアの 中小企業振興を通じて 新たな市場の開拓を

マレーシア中小企業公社  
ダト・ハフサ・ハシムCEO

profile

英国アストン大学で修士号（経営学）を取得。マレーシア通商産業省、農業省、第一次産業省など公的機関での勤務を経て、2005年より現職。

